

北部機械金属業界の景況動向

(2010年7~9月実績/2010年10~12月見通し)

○ 調査対象：舞鶴市以北3市2町の機械金属関係企業125社 【調査時点 平成22年9月下旬】

○ 回答数：79社 (内訳は以下のとおり)

① 市町別 = 舞鶴市 18、宮津市・与謝野町・伊根町 12、京丹後市 49

② 業種別 = 一般機械 27、電気機械 5、輸送機械 15、精密機械 22、その他 10

(区分) 一般機械…工作機械、産業機械部品等

電気機械…家電部品、電子部品等

輸送機械…自動車部品、船舶等

精密機械…半導体・液晶関連、精密機械部品等

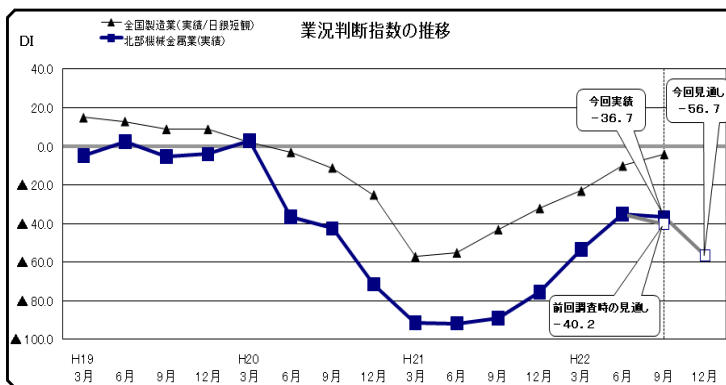
③ 従業員数別 = 10人未満 23、10~50人未満 34、50人以上 10、不明 12

※アンケート調査の他に一部企業の訪問調査を実施 【調査機関：財団法人京都産業21北部支援センター】

— 調査結果 —

1 景況動向判断

● 7~9月実績のDI(業況判断指数)は、-36.7となり、前回調査(4~6月分。以下「前回」という)の-34.9より1.8ポイント低下した。地域別では、宮津市・与謝2町域は-33.3(前回-46.2)と12.9ポイント上昇したが、舞鶴市域が-55.6(同-52.9)、京丹後市域が-30.6(同-26.0)と2地域では低下した。北部地域全体の景況感は、4期連続で上昇していたが、今回僅かに前を下回り、景況感の改善傾向にかけりが見えた。注：DI = (非常に良い+良い) - (非常に悪い+悪い)



● 業種別では、一般が-44.5(前回-44.0)、精密が-27.3(同-13.0)、その他が-50.0(同-36.3)と3業種で前回より悪化した。一方、電気が-20.0(同-50.0)、輸送が-33.3(同-46.7)となりマイナス幅が縮小した。

● 10~12月見通しのDIは、前回-40.2より16.5ポイント下がり-56.7と再び悪化を見込んでいる。業種別では、輸送・精密で「非常によい」「良い」とする企業はない。業種別でばらつきは見られるが、一部の経済政策終了・円高の懸念等による受注量の減少などから、先行きに対し厳しい見通しとなった。

業種	非常に良い	良い	普通	悪い	非常に悪い
全体	1.3	40.5	41.8	6.3	3.7
一般	7.4	33.3	44.5	11.1	7.4
電気	20.0	40.0	40.0		
輸送	6.7	53.3	40.0		
精密	13.6	45.5	31.8	9.1	
その他	10.0	30.0	60.0		

業種	非常に良い	良い	普通	悪い	非常に悪い
全体	9.5	24.3	63.5	2.7	
一般	16.7	29.1	50.0	4.2	
電気	20.0	20.0	60.0		
輸送		33.3	66.7		
精密	22.7	72.7	4.6		
その他	25.0	75.0			

2 採算状況

● 7~9月の採算状況は、黒字とする企業が19.2%(前回12.5%)と増加、赤字とする企業は33.3%(同37.5%)と減少したが、未だ赤字企業が黒字企業を上回っている。また、約半数の企業もトントンとしており、厳しい経営状況が継続している。

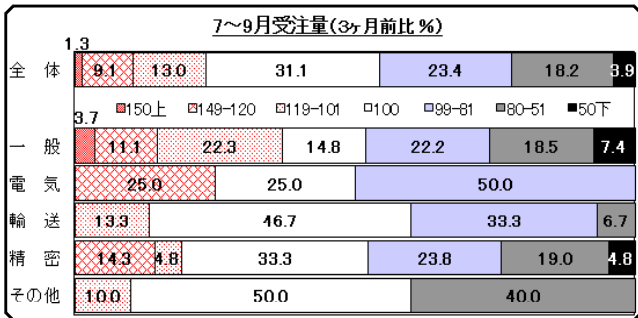
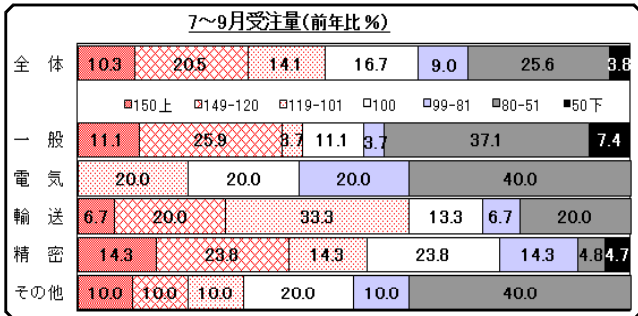
● 業種別では、全業種で黒字とする企業が見られ、輸送のみで黒字が赤字を上回った。一方で、一般・精密・その他では、赤字とする企業が黒字とする企業を上回っている。

業種	黒字	トントン	赤字
全体	19.2	47.5	33.3
一般	7.4	51.9	40.7
電気	20.0	60.0	20.0
輸送	33.4	53.3	13.3
精密	23.8	38.1	38.1
その他	20.0	40.0	40.0

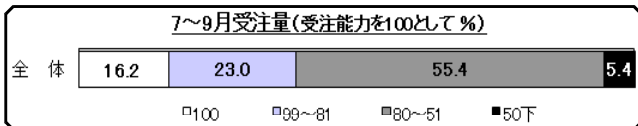
3 受注量

●7～9月受注量は、対前年同期比100%以上を確保した企業は61.6%（前回61.6%）と横這いとなった。業種別では、輸送・精密で約7割の企業が、一般・その他で約5割の企業が100%以上を確保した。

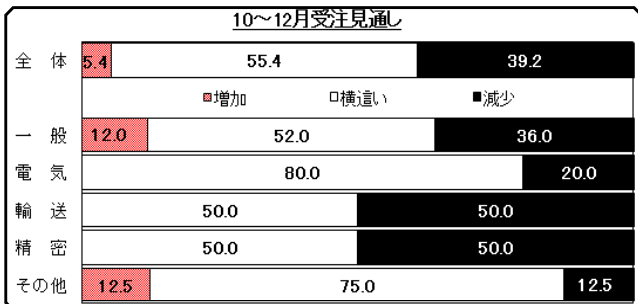
また、対3箇月前比100%以上を確保した企業は、54.5%（同57.6%）と減少した。業種別では、輸送・その他で6割の企業が100%以上を確保した。



●受注能力を100とした7～9月受注量（稼働割合）は、100%とした企業は16.2%（前回17.9%）と若干減少した。業種別では、電気を除き4業種で満杯とする企業があるが、一般・輸送では満杯とする企業は1割に満たない。

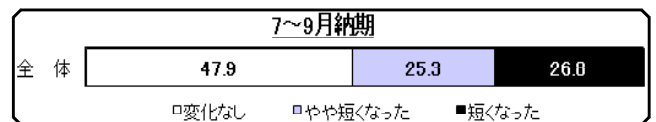
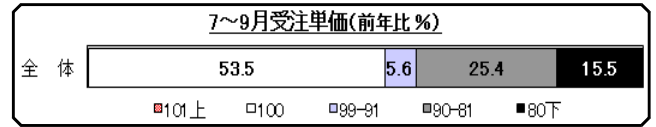


●10～12月受注見通しでは、増加を見込む企業の割合は5.4%（前回16.2%）と10.8%減少する一方で、減少を見込む企業の割合は39.2%（同17.6%）と21.6%増加した。業種別では、増加を見込む企業が、電気・輸送・精密で皆無となっており、景況動向見通し同様に、厳しい見方となった。



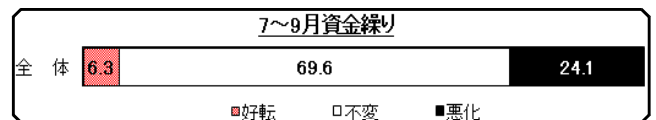
4 受注条件（受注単価／納期）

●受注単価が下落したとする企業が46.5%（前回52.0%）、納期が短縮したとする企業は52.1%（同61.8%）と、いずれもやや好転した。しかし、約半数の企業が、依然として厳しい条件となっている。



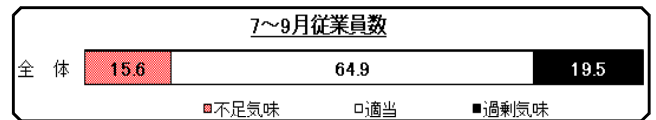
5 資金繰り

●資金繰りは、好転とした企業が6.3%（前回8.8%）、悪化とした企業が24.1%（同28.7%）となり、いずれも減少した。



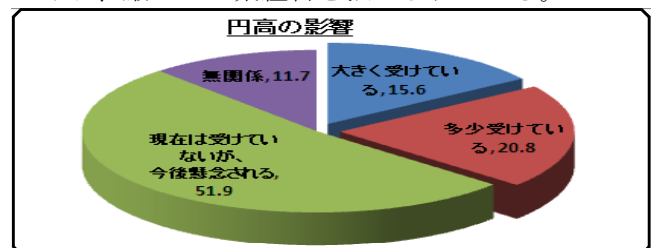
6 従業員数

●従業員数は、不足気味が15.6%（前回12.8%）と増加し、過剰気味が19.5%（同30.8%）と減少している。



7 円高の影響

●影響を大きく又は多少受けているとする企業の割合は36.4%で、今後影響が懸念されるとする企業の割合は51.9%であった。主な影響は、国内生産の縮小・海外生産へのシフト・単価引き下げ等であり、厳しい企業経営を強いられている。



8 設備投資

●設備投資は、「実施中」又は「計画中」とした企業は12.5%（前回19.7%）と減少した。業種別では、輸送で「実施中又は計画中」とした企業が35.7%であったが、電気では皆無であった。

